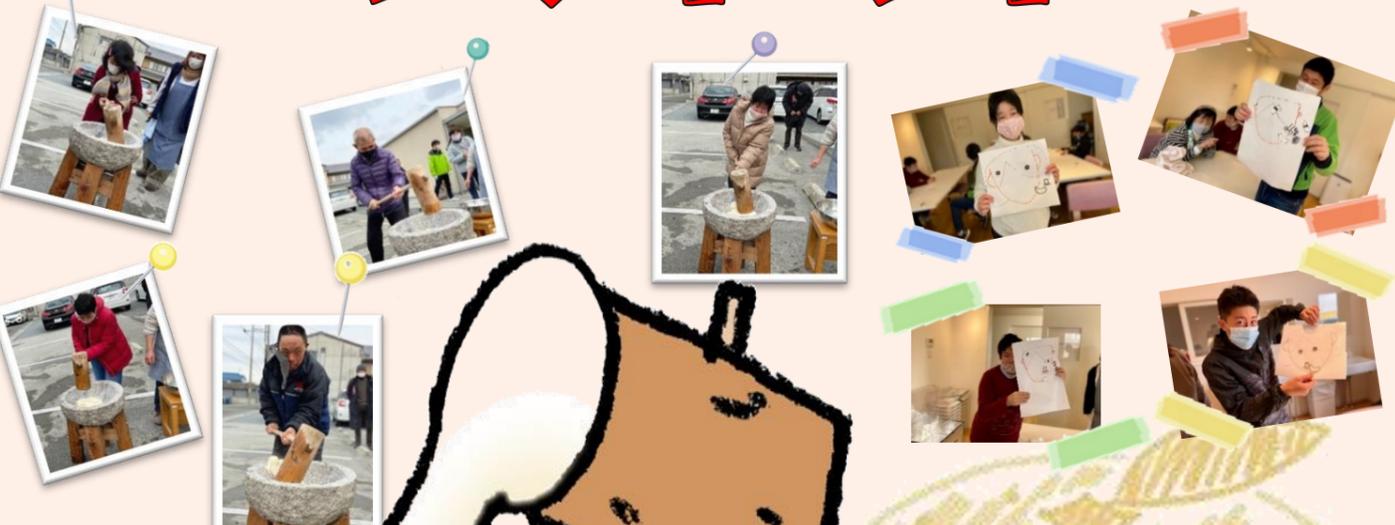


ふたかみ NEWS プチマト



新年の取り組みとしまして、毎年恒例のもちつきを行いました。みなさん「よいしょ！」っとかいぱいお餅をついてくれました。つきたてのお餅はすごく美味しかったです！お餅を食べた後は、福笑いやカルタなど正月遊びをして楽しみました！！

おもちつき



社会福祉法人ふたかみ福祉会

〒583-0856 大阪府羽曳野市白鳥3-16-1 木村ビル4階 TEL 072-959-3221 FAX 072-957-1604

Email: futakami@kagayaku-inochi.com <https://kagayaku-inochi.com/company/>

発行責任者：石本悦二 編集責任者：関口奈緒美



「インベーダー」
様々な色を重ねるのが得意な方でカラフルな作品へと変化していきます。描いている本人にタイトルを聞くと「インベーダー」と答えてくださりました。



「まるがたくさん」
描いては重ねてとたくさんの丸が描かれています。色もご自身で選ばれており色とりどりの丸が完成しています。

「ねこのさんぽ」
動物が大好きでその中でもネコの絵をよく描かれています。貼り絵と梱包材でカラフルに表現されておりまるでネコが散歩している様です。

はじきの園
アトリエ班
さくひん



「すもう」
お相撲が大好きな方の作品となっています。相撲の時期になると楽しそうに話をされています。オレンジと黄色の色鉛筆がぶつかり合いまるで相撲をしているかのような作品となっています。



《きょうされん第44次国会請願署名・募金運動キャンペーン》

○署名活動(きょうされん第44次国会請願署名・募金運動キャンペーン)が始まりました。昨年の43次署名では全国で80万筆を超える署名を国会に届ける事ができました。ふたかみ福祉会でも昨年は1,208筆が集まりました。今年も皆様是非ご協力をお願いします。

※署名にご記入していただければ、ニュース一面の連絡先にご連絡いただくか、下記のふたかみ福祉会の事業所にお声掛けくださると幸いです。

- 【支援センターはる】羽曳野市白鳥3丁目16-1 木村ビル4F TEL072-957-7021
- 【大西記念センター】羽曳野市誉田7丁目808-1 TEL072-931-2040
- 【ハピバル】羽曳野市西浦1112-2 TEL072-958-3232



■後援会入会及び更新の方々(敬称略)

【2020年度12月】

- ・高木晶美 渡辺博子 以上4口
- ・石井勝代 以上3口
- ・森和寛 山下記永 以上2口
- ・辻敏之 辻まち子 辻敏哉 辻摩美 石田陽喜 荒田貴美子 以上1口

■寄附金.....大阪友の会様

■ボランティア.....であい様/畑英作様/細川直幸様/松倉和代様/垣内秀夫様

■アルミ缶回収(12月分).....1310kg

ありがとうございました

◆2020年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

法人では用地を確保し、暮らしの場の充実をはかっていきます。皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【個人会費：1口3,000円 団体会費：1口10,000円】 郵便振替口座：00940-5-325894

法人研修「障害者支援と虐待防止」～「質の高い支援」を目指して

1月9日(土)に東洋英和女学院大学の石渡和美先生に講師としておこしいただき虐待について法人研修を行いました。今回の研修では新型コロナウイルス感染症予防のためリモートによる形式で会場を2か所に分け、検温、消毒等十分な対策を行い実施しています。

【不適切な支援とは】

実際の事例を交えながらのお話でしたがその中で、「不適切支援」と「虐待」の2つの言葉はしばしば使い分けられることがあるが、「不適切支援」は「虐待」であるということが特に印象に残っています。さらに「自分がされたら嫌な事を障害のある人にしていないか」という支援者側の理論ではなく、「嫌なことは人によって受け止め方が違う」ということ、一人ひとりの違い、個性に応じた関わりが重要であるとのお話に、相手の立場に立って考える大切さをあらためて感じました。

また、障害のある人の成育歴や体験によっては受け止め方が違うことに留意し、障害がない

同年代の人にも許されることなのか、働く場か暮らしの場かなど場面に応じた対応など、不適切な支援かどうかを考えるうえで重要であるとお話しされています。

【小さなできごと】

支援している中で「なかまに對する支援がこれでよかったのか・・・」そういったモヤモヤ感を「小さなできごと」とお話しされています。「小さなできごと」の例えに『なかまから話があると言われたが「忙しいからちょっと待って」と答え1日過ぎてしまった』などのエピソードが紹介されました。このような支援の中で「これで本当に良かったのか・・・」と振り返るとともに個人だけの問題にせず職員間で共有しあうこと、また日頃から相談しやすい風通しの良い職場を作っておくことが重要であるということをお伝えされました。

【OからプラスO】

これまでの虐待事例を整理されるなかで職員間のコミュニケーションの不足を述べられていました。実際に私自身が署名を行う意義を理解できていないままお願いをしているところがありました。しかし、今回の雨田さんの話を聞いて自分自身が理解をして訴えていくことの大切さを再度学ぶことが出来ました。

次に他施設での署名運動の取り組みについて話がありました。豊中にある施設では法人全体の目標、職員一人の目標を設定して、ガンバルデーと呼ばれる街頭署名をなかま、職員と共に実施したと報告がありました。また、新人職員に対して署名を理解してもらうために学習会を設けていることをお聞きしました。次に東大阪の施設ではガンバルデーを行い、後援会活動でお世話になっている団体に対して返信用封筒と共に署名をお願いして送っていただくなどの対応を取っていることを学びました。ふたかみ福祉会でも今回聞いたお話を参考にしていけたらなと思います。

今回初めて署名についての学習会に参加し、署名について様々なことを学ぶことが出来ました。一人一人の声は小さくても大人数で訴えることにより大

ます。どうすればコミュニケーションを取りながら虐待を未然に防ぐことができるのか？発想の転換で虐待をOにするのではなくよりプラスにするに視点が大切であると話されています。つまりなかまの笑顔や誇らしげな姿に注目すること、質の高い支援とそのなかまの姿を記録し職員間で共有していただく大切であると教えていただきました。また障害のある人の有するハンディキャップやマイナスイ面だけでなく、長所、その人の持っている力に注目する「いいとこさがし」を強調して述べられています。

最後に、虐待とは「生きる力(主体性)を奪うこと」と研修の冒頭にお話がありました。私たち支援者はあらためてその意味をしっかりと理解しなければならぬと感じます。

虐待を起こさないことはもちろんですが、なかま一人ひとりが希望をもって人生を送れるように、「Oからプラス」の視点を大切にしていきたいと思えます。(田邊ゆ)

きな声になるので、一人でも多くの方に障害福祉が抱えている現状を理解してもらいたいと思えます。第44回国会請願署名にご協力よろしくお願い致します。(波多江ひ)

グループホーム 大西記念センターの ゆく年くる年

グループホームの様子は、コロナの影響もあり、みんなご飯を食べることを控えたり、交流会などのイベントが行えないといった少し寂しい幕開けでした。

そんな中、なかまから「クリスマスに何か特別なことがしたいなく」という声があり、みんなで集まることができなくても何か楽しいことをしようと、サントクロースが各ホームでプレゼントを配ることにしました！事前に告知をしていなかったため、急な訪問者になかま達はびっくりしていましたが、ニコニコ笑顔でプレゼントを受け取ることが出来ました！
年が変わって2021年1

映画「星に語りて」Starry Skys

東日本大震災の障害のある人と支援者の映画を見て、震災の時の事を思い出しました。自分は奈良に住んでおり何処か他人事だったとおもいます。自分が被災していたら、避難所に同じように障害のある人がいた場合どうしているのかなど考えさせられました。現在のコロナ禍の中でも、マスクをしない人や咳をする人を良く思わなかったり、軽蔑したりする人もいると思います。

自分がその立場になった時、また同じことをされたら想定されたとき、それでいいと思えるでしょうか。
東日本大震災では、障害のある方の死亡者が2倍だったと言われています。この現実を受け止めて、私たちがすべきことは何なのかを考えさせられました。

映画の中で変わっていく障害のある方たち、支援者の笑顔が印象的でした。私も笑顔で仕事をこれからもしていきたいと感じました。(松田)



月元日。コロナウイルスの影響で、全員揃っての賑やかなお正月とはいきませんでした。職員が作ってくれた数の子やだし巻き、煮しめといったおせち料理と、お雑煮風の汁物といった正月料理を朝ご飯に食べながら新年を祝いました。いつもなら近くの神社まで初詣に行くのですが、今年は寒さと密を避けるため、参拝を断念し、ステイホームなお正月になりました。

なかま達は少し退屈そうにしていますが、箱根駅伝やお笑いの特番を見たりして、のんびり新年を過ごしました。「来年はみんなと一緒に過ごしたい」「ゆっくり箱根駅伝を見てから、このままでいいかな」と、なかまのいろんな声を聞くことが出来ました。昨年コロナウイルスに振り回されて楽しいことよりも大変だったことが多い1年でしたが、2021年は楽しいことが多くなる生活となるよう、みんなが明るく元気に過ごしたいと思えます。(波多江ひ)

署名学習会

12月15日に大阪きょうされんが主催する署名学習会が、今回はコロナ禍のためZOOMでの開催となり、私自身署名に関する知識が不十分であった為多くのことを学びたいと思い、この研修に参加しました。

最初は、きょうされん事務局長の多田さんから署名の請願項目などの学習でした。今回の署名運動で大きく国に訴える必要があると思った項目は「新型コロナウイルス」についてです。現在世界中で新型コロナウイルスが大流行する中で、なかまの仕事の減少や、職員・なかまともに感染リスクがある中で生活をおこなうことが難しくなっています。その中で国に対して障害福祉が置かれていない現状を伝えることが今回の請願署名の大きな目的であることを学びました。

次にきょうされん大阪支部事務局長の雨田さんのお話をお聞きしました。雨田さんの話の中で「署名をお願いするものであるため、署名をお願いする側の人間がしっかりと署名について理解する」という言葉が印象に残りま